

国土交通省近畿地方整備局様  
淀川水系流域委員会様

2007. 11. 18

宇治市 菟道  
山岡 久和

#### 意見及び質問

第 66 回委員会審議資料 2-4 について戦後最大洪水で検証された説明として、「流域全体の安全度の向上を図るため、上下流バランスを確保しつつ、河道において洪水を安全に流下させる」との説明と回答であります。そもそも戦後最大の洪水である 5313 型降雨の 1.5 倍、2.0 倍、2.5 倍のグラフが原案の説明にもなっていないではありませんか。言い換えれば河川管理者は質問の内容を歪曲させ、誠意を持って応えているように見せかけ、原案に関係が無い内容であり時間の浪費をさせただけです。

また、審議資料 2-3 において水位縦断図が示されてありますが宇治川水位縦断図では 50.4 キロまでは堤防の高さとしては問題がないようですが、ほとんどの方々が問題にしています 50.4 キロから 52.4 キロまでの詳細がまったくわかりません。

P5.P6.P7 の図面からは、河床掘削さえすれば琵琶湖の後期放流が可能になり、ほかの事業の説明は全て同じグラフに見え、天ヶ瀬ダム再開事業、大戸川ダム、川上ダムの効果がほとんど無いように見えます。

河川管理者は問題となってある部分はわかりにくくして、事業の効果について説明をしなければならぬことについては効果が無いように説明されていますが説明責任を感じてほしいものです。

従いまして P5.P6.P7 の 50.4 キロから 52.4 キロまでの詳細を誰が見てもわかるように、この部分を拡大した水位縦断図と横断図でそれぞれ、どれだけの効果があるのかも含めて説明をしていただきたい。

また、河川管理者はこの委員会の説明において、宇治川塔の島地区上流部の説明では、委員よりこのグラフの説明で堤防のラインが消えていることについての質問に対して河川管理者は、堤防の表示が印刷されていないだけのように説明されましたが、このあたりには掘り込み河道であり堤防はありません。現地も知らない人が説明し、現地の状況も知らないで計画されていることに不信感を覚えます。

この部分にだけでも河川管理者の説明のいい加減さと、淀川水系流域委員会委員は質問と意見等の少なさからして情熱が感じられません。

淀川水系流域委員会委員は少なくとも今まで審議された結果と、到達点を積み上げ発展させていく責任があるのではないのでしょうか。

委員の方々の奮起を期待しています。